

40 期を迎え、感謝の気持ちを重ね、結び、繋ぎ、未来へ向かう 1 年に

株式会社サンフーズジャパンの全てのステークホルダーの皆様へ、第 40 期を迎えるにあたり、この場をお借りして私の思いをメッセージでお伝えします。

平素は多大なるお力添えをいただきありがとうございます。

弊社は、2024 年 3 月 31 日に第 39 期を無事に終え、82 名の従業員と共に第 40 期をスタートさせていただきました。

期初に掲げました指針の通り「Thank you!」で締めくくることができたことを心から嬉しく思います。

これは、サンフーズジャパンで日々働いていただく従業員の皆さん、そしてサンフーズジャパンに関わる全ての方々のおかげです。

業績については、売上高 20 億 3 百万円を達成することが出来ました。

サンフーズジャパンが目指す姿を示した「ビジョン実現プロジェクト for2025」で掲げた売上高 20 億円の達成は、1 年前倒しで達成することができました。

また、39 期は全社の指針「Thank you」のもと、様々な取り組みを実施しました。

大きな取り組みのひとつが「Thank you カード」です。

従業員一人一人が、日々の感謝をカードにしたためて送り合う「Thank you カード」。

Thank you プロジェクト開始から 3 月末まで、実に 380 通の thank you カードでメッセージが送られました。

日々のお仕事の中で、何気ない感謝を形にして下さった従業員の皆さんのおかげで、

人から「ありがとう」と言っていただけの仕事がサンフーズジャパンにはたくさんあると実感させていただきました。

この取り組みは継続することが大切と考えていますので、Thank you カードプロジェクトは 40 期も継続して実施します。

私の大切にしたい言葉があります。

「幸せとは 手に入れるものではなく 望むものでなく 気づくもの」

日々の生活の中で、人に感謝する事を探せば、きっと自分自身が幸せになるような気がするのです。

40 期も全社一丸となって「感謝のネットワーク」を広げていきたいと考えています。

第 40 期は 39 期の取り組みを継続し、さらに、次の 10 年に思いを繋げるという意味で、「有難う」という言葉を選びました。

単にアルファベットを漢字に翻訳しただけに過ぎず、と思われるかもしれませんが、

実はここに込めた特別な思いがあります。

「ありがとう」の語源は「有り難し」であると言われます。

「有り難し」とは、本来起こる事がない出来事、あり得ない事、非常にまれな事、という意味があります。

普段の生活や、仕事の中で、人に何かしてもらうことは、決して当たり前の事ではなくひとつの「奇跡」のような出来事であり、そのことに感謝する気持ちが「有難う」の言葉には込められています。この指針の下、今期も従業員の皆さんとたくさんの「ありがとう」を重ねて、お客さまに貢献する企業であり続けたいと考えます。

いよいよ2022年から取り組んできた「ビジョン実現プロジェクト For2025」も40期が集大成になります。

まさに混迷の時代の中39期も、チャレンジを繰り返し、達成できたこともたくさんありました。

また、社内の皆さんの努力はもちろん、社外のたくさんの方々にご協力をいただき、様々な取り組みが前進した事で、たくさんの課題を認識する事も出来ました。

収益性の改善、生産性向上、人材育成、クレームゼロミッションなどの取り組みは、これから企業が社会から求められる使命に直結する喫緊の課題であり、会社を未来につなぐ大切なエレメントであり、弊社の継続課題でもあります。

サンフーズジャパンは、従業員一丸となって、ビジョン実現から次の10年の基盤を作っていきたいと強く願っています。

そして、サンフーズジャパン創業の志「サンフーズジャパンはお客様のためのサンフーズジャパンです」の実践を皆さまにお誓いいたします。

全てのステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年4月1日

吉田武史